

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

三区間交流事業

実 施 報 告 書

(令和7年7月21日～25日)



令和7年11月

目黒区文化・交流課

【目 次】

I	はじめに	1
II	三区間交流事業（北京市東城区）【7月21日～25日】	
1	目 的	2
2	主催者	2
3	日 程	2
4	目黒区選手団及び代表団、議員団の構成	3
5	概 要	4
6	報告会	15
7	まとめ	16
8	選手感想文（目黒区選手16名）	17

【参考資料】

三区間交流事業事前調査（北京市東城区）【5月21日～23日】

1	目 的	25
2	日 程	25
3	訪問団の構成	25
4	概 要	26
5	まとめ	29

I はじめに

目黒区と北京市東城区との交流は、昭和５４年に東京都が北京市と友好都市の提携を結んだことから、２年後の昭和５６年に当時の目黒区長が北京市を訪問、その折、当時の北京市崇文区（現在の東城区）を訪問したことがきっかけで、崇文区と目黒区との交流が始まりました。

その後、平成３年に崇文区と目黒区は友好都市協定を締結したことにより本格的な交流が始まり、相互に友好交流団を派遣するなど交流を推進してきました。また、平成２２年に崇文区と隣接する東城区が合併したことに伴い、平成２３年に東城区と目黒区は改めて友好都市協定を締結し、この間も目黒区議会の訪中、両区の児童・生徒による書画作品展の開催や小学生による年賀状交換など様々な交流を続けてきました。

一方、目黒区とソウル特別市中浪区との交流は、崇文区と中浪区が友好都市関係にあることから、平成２２年に中浪区から目黒区に対して友好交流要望があり、その年に相互に代表団が訪問するなど交流が始まりました。平成２５年には、「友好増進及び交流協力覚書」に調印し、両区の小学生による賀状の交換を開始したほか、平成２６年には、目黒区スポーツ交流団が中浪区を訪問してバレーボールの交流試合等を行うなど、交流を推進してきました。

東城区と中浪区との交流推進に向けて、平成２７年７月には東城区長及び人民代表大会常務委員会主任から招聘を受け、区長、議長をはじめとした目黒区代表団が文化・芸術、教育、スポーツなどの分野で様々な交流の発展を目指していくため、東城区を訪問しました。その際、目黒区長から当時の張 家明（ジャン ジャミン）東城区長に対して、中浪区も含めた三区間での青少年同士の交流ができないかと提案を行い、東城区長から前向きな回答を得ました。

その後、平成２８年７月に東城区で行われた三区による実務者協議等を経て、翌平成２９年７月に東城区において、目黒区・東城区・中浪区の三区による第１回の三区間交流事業が実施されました。青少年の交流種目としてバスケットボールが採用され、三区の中学生が試合を行いました。続いて、平成３０年には目黒区を開催区として、令和元年には中浪区を開催区として、バスケットボールを種目とするスポーツ交流や文化交流を行いました。

令和２年からは新型コロナウイルス感染症の流行拡大に伴い、対面交流を中止し、オンラインにて動画交換やライブ配信での交流を続けてきました。そして令和６年度には、中浪区にて再び目黒区・東城区・中浪区の三区の中学生が集い、コロナ禍以降初めての対面開催を果たしました。スポーツ交流種目にはバドミントンが採用され、初めて国別対抗ではなく三区混合チームによる交流が行われました。

令和７年度は、東城区にて引き続きバドミントン交流を行うことが決定され、令和７年５月には三区担当者による対面およびオンライン会議にて協議を行いました。

こうした経過を踏まえ、本年７月２１日から２５日にかけて、東城区において三区間交流事業を実施しました。

本報告書は、この事業実施結果をとりまとめたものです。

Ⅱ 三区間交流事業（北京市東城区）【7月21日～25日】

1 目 的

友好都市である中国北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区との継続した友好交流を推進するため、次代を担う子どもたちによるスポーツ交流及び文化交流事業を行う。

2 主催者

目黒区・中国北京市東城区・韓国ソウル特別市中浪区

3 日 程

令和7年7月21日（月）から7月25日（金）までの5日間

月 日	時間帯	内 容	場 所
7月21日 （月）	午前	・ 出国	羽田空港
	午後	・ 中国北京市東城区到着 ・ 開会式予行練習、チーム練習 ・ 目黒区代表团 東城区政府訪問 ・ 歓迎夕食会	北京首都国際空港 龍潭湖体育館 東城区外事弁公舎 全聚德（王府井店）
7月22日 （火）	午前	・ 目黒区代表团 龍潭公園内桜視察 ・ バドミントン大会開会式 ・ 交流試合（予選）	龍潭公園 龍潭湖体育館 龍潭湖体育館
	午後	・ 交流試合（予選） ・ 目黒区代表团 東城区内視察	龍潭湖体育館 紅橋市場、天壇
7月23日 （水）	午前	・ 交流試合（準決勝・決勝） ・ 目黒区代表团 東城区内視察	龍潭湖体育館 王府井大街
	午後	・ バドミントン大会閉会式 ・ 文化体験活動	龍潭湖体育館 崇文区青少年活動センター
7月24日 （木）	午前	・ 東城区内視察	故宮博物院、天安門広場
	午後	・ 東城区内視察 ・ 歓送夕食会	孔子廟、国子監、鼓楼 北京オリエンタルパレスホテル
7月25日 （金）	午前	・ 東城区内視察	正陽門、前門大街
	午後	・ 帰国	羽田空港

＜参考＞ 経費負担

宿泊旅費、海外旅行保険、旅券交付手数料、ポロシャツ等7, 345千円余。

※三区間の取決めにより現地車両費、通訳士経費、交流食事会経費は東城区が負担

4 目黒区選手団及び代表団、議員団の構成

(1) 三区間交流選手団（24名）

団 長 平野 宏子 スポーツ振興課長

団 員（事務局）

西村 敏弘 文化・交流課長

成毛 久雄 文化・交流課交流推進係長

橋本 紗花 文化・交流課交流推進係主事

佐藤 舞笑 スポーツ振興課計画指導係主事

（指導スタッフ）

野村 幸一 目黒区バドミントン協会理事長

花輪 美保 目黒区バドミントン協会常任理事

（看護師）

升屋 奈緒

選 手 目黒区の中学2年生16名（男子8名、女子8名）

学 校 名	氏 名	性別
目黒区立目黒中央中学校	石丸 義朔	男
目黒区立目黒中央中学校	富田 瑛登	男
目黒区立目黒中央中学校	矢野 和直	男
目黒区立目黒中央中学校	小林 莞太	男
目黒区立大島中学校	大場 進平	男
目黒区立目黒南中学校	福島 瑛太	男
目黒区立目黒南中学校	武藤 侑志	男
目黒区立目黒西中学校	伊藤 傑	男
目黒区立東山中学校	山本 結衣	女
目黒区立東山中学校	本松 華	女
目黒区立目黒中央中学校	大倉 駒子	女
目黒区立目黒中央中学校	津川 夏希	女
目黒区立目黒西中学校	屋敷 いおり	女
目黒区立目黒西中学校	岡本 那々衣	女
玉川聖学院	宮本 瑠美奈	女
目黒日本大学中学校	中橋 柚七	女

(2) 代表団（3名）

青木 英二 目黒区長

濱下 正樹 文化・スポーツ部長

千田 美都夫 秘書課長

(3) 議員団（7名）

団 長	鈴木 まさし	目黒区議会議長
副団長	おのせ 康裕	目黒区議会議会運営委員会委員長
団 員	西村 ちほ	自由民主党目黒区議団・区民の会幹事長
	吉野 正人	めぐろの未来をつくる会（無所属・国民・維新）幹事長
	金井 ひろし	立憲民主・目黒フォーラム幹事長
(事務局)		
	松下 健治	目黒区議会事務局長
	神邊 敏彰	目黒区議会事務局庶務係長

5 概 要

(1) 第1日目（令和7年7月21日）

ア 目黒区選手団 開会式予行練習、チーム練習

① 日 時 令和7年7月21日（月）午後3時から5時30分まで

② 場 所 龍潭湖体育館

翌日からバドミントン大会が行われる会場にて、東城区および中浪区の選手団と対面しました。今年の大会は、昨年に引き続き各国混合チームによる試合となります。会場は、バドミントンコートが最大10面取れるほどの広い体育館です。各国選手とアイスブレイクを行った後、入場行進等開会式の予行練習が行われました。その後約1時間程度、チーム毎にダブルスの練習を行った中では、言葉や文化の違う他国の選手とのコミュニケーションに戸惑いながらも、翌日からの試合に向けイメージを掴みました。



イ 目黒区代表团 東城区政府訪問

① 日 時 令和7年7月21日（月）午後4時から5時まで

② 場 所 東城区人民政府

③ 参加者 【東城区】陳 献森（チェン・シェンセン）区長 ほか5名

【目黒区】区長、文化・スポーツ部長、秘書課長

北京市東城区人民政府の陳 献森（チェン・シェンセン）区長からは、今回のスポーツ及び文化交流開催ホスト国としての挨拶の後、東城区の世界遺産・教育・医療・経済の発展・充実の状況などの現状紹介に続いて、友好交流が今後更に発展していくため、常態化した相互訪問の実施機会の構築、防災・経済・文化・観光分野における課題の共有や交流の推進、交流事業に携わる人材育成を見据えた学校間交流の実施について提案がありました。

これに対し目黒区長は、ホスト国としての準備への感謝や、約20年前に今回のバドミントン大会会場である龍潭公園に友好の証しである桜の木を植樹したことを伝え、目黒区の特徴として、区内の多くは住宅地で治安が良く、目黒川の桜が有名で大きな病院も複数あることを紹介した後、今後の交流に向けた東城区側の提案に対して、環境や防災面での課題の共有や意見交換の実施、商業分野や商店街の交流の推進、次代を担う子どもたちのため両区の学校間の交流の推進については、しっかり検討したいと応じました。



ウ 歓迎夕食会（陳 献森（チェン・シェンセン）東城区長主催）

① 日 時 令和7年7月21日（月）午後6時30分から8時30分まで

② 場 所 全聚徳（王府井店）

③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表团・選手団、目黒区代表团・選手団・議員団

歓迎夕食会は、三区の選手団や代表团および関係者が一堂に会し、和やかな雰囲気の中行われました。各区長より、今年度も三区間交流事業が開催されることへの感謝と、明日から始まるバドミントン大会への期待の言葉が述べられました。

夕食会ではバドミントン大会のチーム毎に座席が指定され、三区の選手たちは同じ食卓を囲みながらジェスチャーやスマートフォンの翻訳機能等を用い、互いにコミュニケーションを取り交流しました。会の途中では、北京の伝統料理である北京ダックの美しい盛り付けの実演が行われるなど、現地の食文化に触れることもできました。



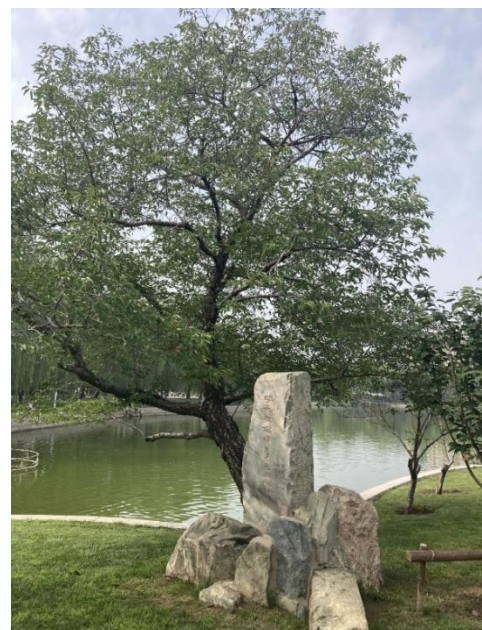
(2) 第2日目（令和7年7月22日）

ア 目黒区代表団 龍潭公園「友好交流の証し『桜の木』」視察

- ① 日 時 令和7年7月22日（火）午前8時40分から9時まで
- ② 場 所 龍潭公園
- ③ 参加者【東城区】王 佑明（オウ・ユウメイ）副区長 ほか3名

【目黒区】区長、文化・スポーツ部長、秘書課長

平成3年に目黒区と当時の北京市崇文区（現在の東城区）が友好都市協定を締結した証として、平成17年に目黒区長が現地を訪問し植樹した桜の木があるのが、バドミントン大会会場でもある龍潭公園です。大会開会式の前に当時植樹した桜の木と近くの記念碑を見学し、大きく成長している姿を確認しました。



イ バドミントン大会開会式

① 日 時 令和7年7月22日（火）午前9時30分から10時30分まで

② 場 所 龍潭湖体育館

③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表团・選手団、目黒区代表团・選手団・議員団

2日目午前9時30分から行われたバドミントン大会の開会式では、舞踊や獅子舞等のパフォーマンスもあり、開催国である中国の伝統文化を感じる中での華やかな開幕となりました。

今大会では昨年に引き続き、国別対抗ではなく三か国混合の4チームに編成され、チーム名はそれぞれ「同心」「同夢」「同愛」「同行」と名付けられました。チーム名には、青少年たちが良いプレーができるようにとの強い願いと、個人の希望を感じることができる共通の意味が込められているそうです。チーム毎に入場した選手たちは、会場から熱烈な拍手で迎えられました。



また今回、チャレンジ試合として中国のバドミントン金メダリスト（張 楠氏）と各国の代表選手がダブルスの試合を行う時間が設けられ、目黒区からは目黒区立目黒西中学校の屋敷さんが代表として参加しました。



ウ 交流試合（予選）

① 日 時 令和7年7月22日（火）午前10時45分から11時30分まで、
午後1時30分から3時まで

② 場 所 龍潭湖体育館

開会式の後には、バドミントン大会の予選が行われました。今回の大会では、男子ダブルス、女子ダブルス、混合ダブルスの3パターンにチームが構成され、大会初日には4つのコートで合計9試合が行われました。前日のチーム練習では、他国選手との意思疎通に戸惑っていた目黒区選手たちも、大会が始まるとジェスチャーや簡単な言葉かけを工夫しながら試合に励み、時間と共にハイタッチなどの交流も増えていきました。



エ 目黒区代表团 東城区内視察

① 日 時 令和7年7月22日（火）午後2時から4時まで

② 場 所 紅橋市場、天壇公園

天壇公園の近くにある1979年に設置された紅橋市場は、これまでも多くの国の政治家や使節団が訪れた市場で、北京市内でも有名な観光名所のひとつです。市場内は、宝石類、家電、雑貨、お土産などの多くの店舗があり、外国人観光客も多くみられました。

天壇は、明清代の皇帝が「祭天」（天に対する祭祀）、「祈谷」（豊作の祈願）を行った場所で、当時の建築技術の集大成であり中国の古代建築の重要な宝として知られています。現在は公園として一般に公開されていますが、非常に暑い中で中国の歴史的建築のスケールの大きさを感じました。



(3) 第3日目(令和7年7月23日)

ア 交流試合(準決勝・決勝)

- ① 日 時 令和7年7月23日(水) 午前9時20分から11時30分まで、
午後1時30分から2時まで

- ② 場 所 龍潭湖体育館

3日目は午前中に3位から8位までを決定する試合が行われ、勝ち進んだペアは午後の決勝戦に臨みました。これまでの2日間での交流中、最初はぎこちなかったペアも次第に打ち解け、会話や笑顔も増え、試合でも息の合ったプレーが多く見られました。

決勝戦では目黒区選手から男子ダブルスは目黒区立目黒中央中学校の矢野さん、女子ダブルスは目黒日本大学中学校の中橋さん、混合ダブルスは目黒区立目黒中央中学校の富田さんが出場しました。会場から大きな声援が送られる中、どの試合も目の離せない熱い戦いとなりました。



イ 目黒区代表団 東城区内視察

- ① 日 時 令和7年7月23日(水) 午前10時から12時まで
② 場 所 王府井大街

北京市内で最も有名な繁華街のひとつである王府井大街で、スマートフォンを中心に様々な電子機器などを手掛ける中国国内の有名な企業や百貨店を視察しました。この企業では、スマートフォン以外に精度の高い自動運転が可能な自動車や、未来の家を定義するスマートホームソリューションなどの紹介を受けました。



ウ バドミントン大会閉会式

① 日 時 令和7年7月23日（水）午後2時から3時まで

② 場 所 龍潭湖体育館

③ 参加者 東城区選手団、中浪区代表団・選手団、目黒区代表団・選手団

閉会式では、審判長より今大会のチームの順位が発表され、各区長より選手一人ひとりにメダルが授与されました。大会MVPは、目黒区選手から目黒区立目黒中央中学校の矢野さん、目黒日本大学中学校の中橋さんが選ばれました。また、各区選手による挨拶では、目黒区代表として目黒区立大鳥中学校の大場さんが務めました。「言葉や歴史文化の違いがあれど、スポーツを通じて様々な感情を共有でき、それがスポーツの持つ力だと感じた。」といった内容には、大場さんだけではなく多くの参加生徒が共感できたのではないかと思います。



エ 文化体験活動（工芸体験）

① 日 時 令和7年7月23日（水）午後4時から5時まで

② 場 所 崇文区青少年活動センター

文化体験活動では、中国の伝統手工芸などの4つのアクティビティが用意され、三区の選手たちはバドミントン大会のチーム毎に分かれクラフト体験に参加しました。中国の無形文化遺産である「焼き箔絵」、釘を使わない木工技術である『ほぞ継』を利用した「組み木づくり」、「頤和園の模型づくり」、中国古来の知恵の輪として有名な「九連環」からチームごとに1種類体験し、中国の多彩な伝統文化を学ぶことができました。どのアクティビティも細かい手作業が多く、選手たちはバドミントン大会時とは違った表情で、楽しみながらも集中して取り組みました。



（4）第4日目（令和7年7月24日）

ア 故宮博物院、天安門広場視察

① 日 時 令和7年7月24日（木）午前9時から午後1時まで

② 場 所 故宮博物院、天安門広場

4日目は、故宮博物院および天安門広場を視察しました。1987年にユネスコの世界文化遺産に指定された故宮博物院は、中国及び世界中で最も大規模かつ完全な形で現存する木造古建築群であり、世界五大宮のトップと賞賛されています。訪れた参加選手たちはその広大な敷地に終始圧倒されながらも、各自しっかりと写真に収めていました。その後向かった天安門広場は、国内外から訪れる観光客も多い、世界で最も広い広場の

一つです。入場するまでには猛暑の中長時間並びましたが、広場に入ると開放的で、一度に50万人程を収容できる広場の大きさを実感しました。



イ 孔子廟、国子監、鼓楼視察

① 日 時 令和7年7月24日（木）午後3時から5時まで

② 場 所 孔子廟、国子監、鼓楼

午後は引き続き東城区内の歴史的建造物の視察を行い、孔子廟・国子監・鼓楼の3か所を訪問しました。ここでは東城区の選手たちと合流し、ガイドの方より歴史のお話などを一緒に聞きながら回りました。

儒教の始祖・思想家である「孔子」が祀られている孔子廟では、中国式の最も丁寧なお辞儀の方法を習い、元・明・清の時代に国が設置した最高教育機関である国子監では、触ると頭がよくなるといわれている像を実際に触ってみるなど、見るだけではなく体験しながら中国の歴史について学ぶことができました。

次に訪れた鼓楼では、69段ある傾斜の急な階段を登りましたが、その先では中軸線を一望することができました。また、かつて市民に時刻を伝えていたという当時をイメージした太鼓の演奏を見学することができ、選手たちは興味をもって耳を傾けていました。





ウ 歓送夕食会（王 佑明（オウ・ユウメイ）東城区副区長主催）

① 日 時 令和7年7月24日（木）午後6時から8時30分まで

② 場 所 北京オリエンタルパレスホテル

今回の交流事業の三区合同スケジュールの最後に、歓送夕食会が開かれました。会の冒頭では、各国の選手が代表してプレゼントの交換を行いました。

交流事業初日に行われた歓迎夕食会の際は緊張した面持ちだった選手たちも、これまでの4日間で各国の選手と打ち解けることができたようです。歓送夕食会では活発にコミュニケーションをとり、プレゼントの交換や写真を一緒に撮る姿が多くみられました。歓談しているうちに時が過ぎ、閉式の時間になると、各国の選手たちは名残惜しそうにそれぞれのホテルへ向かいました。



（5）第5日目（令和7年7月25日）

ア 正陽門、前門大街視察

① 日 時 令和7年7月25日（金）午前9時から11時まで

② 場 所 正陽門、前門大街

最終日は、昨年末に一般公開されたばかりの正陽門・箭楼を見学し、併設された展示室では、ガイドの方から案内を受けながら見学しました。あいにくの雨でしたが、展示室の上階からは中軸線および、この後の行程で向かう前門大街の景色を見ることができました。

正陽門見学後は前門大街の路面電車に乗り、歴史ある商業街を眺めながら移動した後、それぞれのお土産を購入しました。



6 報告会

① 日 時 令和7年10月3日（金）午後6時00分から7時30分まで

② 場 所 目黒区総合庁舎2階大会議室

渡航から約2か月を経て、本事業の内容を振り返る報告会を行いました。参加選手および保護者の方に加え、区長、議長をはじめとする区関係者を含めた42名が参加しました。会の中ではスライドショーの上映を行い、東城区滞在時の写真や動画を見ながら当時を懐かしく振り返りました。参加選手一人ひとりの感想発表では、楽しかったことや印象に残ったことはもちろん、海外の選手との交流について、コミュニケーションがとれたことへの驚きや喜びの声が多くあがりました。コーチからのコメントもいただき、全員が無事再会できたことへの喜びを噛みしめつつ、和やかな雰囲気の中閉会となりました。



7 ま と め

本年で7回目となる日中韓三区間交流事業は、昨年に引き続き対面開催により、北京市東城区において全5日間にわたる行程を無事実施することができました。本事業のメインとなるバドミントン大会では、三区混合でチームが編成され、海外選手とともに協力して試合に臨みました。また文化交流体験では、開催国である北京市東城区が誇る歴史文化遺産を中心に見学し、参加選手たちにとっては日本国内では体験し得ない様々な学びの場を提供することができたのではないかと思います。

スポーツ交流では、昨年に引き続き本年も三区混合チーム編成を採用したことにより、勝敗だけではなくスポーツを通じて国を超えた友好交流を重視したかたちで行われました。ペアとなった選手たちは、対面当初こそ戸惑いが見られたものの、練習や試合の回数を重ねるうち、簡単な英語やジェスチャーを用いたコミュニケーションに加え、互いの言語を学び合いながら意思疎通を図るなど、工夫して徐々に相互理解を深める姿が印象的でした。

文化交流では、中国文化の長い歴史で築かれた伝統手工芸の制作体験に加え、故宮や天安門広場等、歴史的建造物を視察しました。5日間の滞在において、日本とは異なる街並みや建造物、食文化などにふれ、新鮮な体験となった選手も多かったようです。

本事業が初めての海外渡航となった選手はもとより、海外の同年代の選手たちと共にスポーツや文化交流を行うことに不安や戸惑いがあった選手も多かったのではないかと思います。しかし、一人ひとりが様々な場面で考え、試行錯誤しながら取り組んでいく姿勢が見られ、5日間の交流事業を通して成長していく姿がとても頼もしく映りました。本事業への参加を通じて、広い視野を持つきっかけや他者との関わり方などの自信につながっていたら幸いです。参加選手たちが今後の日常生活や将来、今回の事業参加によって得た経験を活かしてくれることを願っています。

なお、今後も三区間交流事業を継続して実施していくことを三区で確認したところであり、次年度においては目黒区にて、引き続きバドミントンを種目としたスポーツ交流を行うことが合意されております。昨年の中浪区開催、本年の東城区開催に続き、未来を担う各区の青少年たちにとって有意義な事業となるよう、今後もより一層充実した交流内容を協議しながら取り組んでまいります。

8 選手感想文

三区間交流事業 目黒区選手団 選手16名

目黒区立目黒中央中学校2年 石丸 義朔

僕は三区間交流で中国に行き、バドミントンを通じて中国の文化や歴史を学びました。こういう体験はあまり出来ないので、良い経験になりました。

バドミントン大会の開会式と閉会式で、獅子舞とダンスなどの披露があり、とても迫力があり楽しめました。

一番良かったことは、ペアの人と仲良くなったことです。

最初は中国語が喋れず、何も話せなかったけれど、翻訳で会話しました。しかし、英語が通じることを知り、今まで習ったことを活かして会話をしました。そのため連携をとれるようになり、自分たちで作戦を立てて練習をしました。バドミントン大会が終わっても、連絡を取るまで仲が深まりました。また、最後の夕食会で中国と韓国のメンバーからプレゼントを貰い、とても大事にしています。

このことから、改めて中国に行って良かったと感じました。また、こういう交流会などがあつたらぜひ参加したいと思います。

目黒区立目黒中央中学校2年 富田 瑛登

自分は今回の三区間交流でとても多くの貴重な体験をしました。出発当日の朝は飛行機に乗る事や海外に行くことへの興奮や、他国のの人たちとコミュニケーションをとることが出来るのかという不安がありました。

中国に到着するとすぐホテルに荷物を置いて練習をしに体育館に向かいました。その日は少し交流をした後に練習をしてからレストランに向かい中国と韓国の人たちと食事をしました。中国の食べ物はほとんどが今まで食べた事の無い味で驚きました。

二日目は、チームに分かれて大会の予選をしました。自分は混合ダブルスをやることになりました。自分のペアはまだバドミントンが苦手だったため二人で作戦を考えました。その作戦が良かったのか決勝トーナメントに進むことが出来ました。

三日目は、二日目と同じく主に試合をしました。二日目よりも点を取った時やとられたときにジェスチャーでコミュニケーションをとることができて気楽に試合が出来ました。混合ダブルスでは惜しくも優勝を逃し準優勝になったがチームは優勝できて、優勝に貢献できたためとてもうれしかったです。

四日目は、主に観光をしました。一番心に残った場所は故宮です。故宮は一つの街ほどの大きさがあって漫画のキングダムなどの世界に入り込んだような気分になりました。

この三区間交流で自分は、言語が違ってても積極的に会話をすることで相手に伝わるため、まずは行動をすることが大切だとわかりました。また、中国の文化は日本と違う事ばかりだったが、他国の文化を否定せず認め合うことの大切さも自分が実際に文化交流をする中で感じました。この四泊五日で学んだ様々なことをバドミントンや日常生活に活かしたいと思いました。

目黒区立目黒中央中学校 2年 矢野 和直

僕は今回の三区交流会で、バドミントンや文化交流、観光などを通じて、中国や韓国の人たちとコミュニケーションをとることができました。中国に行くのは初めてでしたが、道路の舗装やトイレなど細かいところが日本と違っていて、日本のきれいさや便利さがよくわかりました。けれど料理は、食べたことがないものばかりでしたが、とても美味しかったです。

バドミントンでは、個人で優勝することができました。ペアの中国の子はとても強く、ダブルスをプレイしているときはお互いに言葉が通じませんでしたが、英語やジェスチャーでなんとなくコミュニケーションをとることができました。中国の子たちはみんなとても強く、小学校のころからやっていたそうです。僕も負けなくらい強くなれるよう頑張りたいです。

交流の夕食会では、チームの人たちとたくさん交流することができ、ペアの子ともたくさん話して、最終日にはめっちゃ仲良くなることができました。

観光では、日本にはないとても大きな城がたくさんあり、迫力があって楽しかったです。ただ、似たような場所に何度も行ったので、少し飽きてしまいました。

今回の交流会に参加して、中国に行く機会もなかなかないし、外国の人とダブルスをプレイすることも、これが最初で最後だと思います。だからこそ、このような体験ができたことに感謝し、一生忘れず、これからの自分に生かしていきたいと思います。

目黒区立目黒中央中学校 2年 小林 莞太

私は三区交流会で色々な人と出会い、様々な体験をしました。その中でも二つ印象に残ったものがあります。一つ目は文化の違いです。簡単な例で言えば、中国では水が常温が当たり前だったり、朝昼晩と出てくる料理がほとんどコッテリしたものだったり横断歩道では、歩行者ではなく車が優先だったり日本とは当然違います。そして二つ目はコミュニケーションの取り方の違いです。日中韓で試合をした時本当に色々な言葉が飛び交っていました。試合のコールの時も中国語で呼ばれてコートに行くという感じでした。最初は意味わかんなかったし何すればいいかわかりませんでした。けどコートに立てば関係ないです。試合でミスしてもラケットを軽くぶつけるコミュニケーションを取ったりもしました。それは試合以外でも特に四日目の夜ご飯の時はみんなでラインを繋いだりお互いの国の言葉を教えあったりしてコミュニケーションをとりました。今回日中韓で共通していたのは優しさと礼儀です。試合の始まりと終わりは、全て握手で始まり、握手で終わります。そしてお土産をかったお店では翻訳機で翻訳して見せてくれるお店もありました。そういう一つ一つの優しさや礼儀が自分たちを支えてくれていたと思います。もちろん区役所の人や親、現地でお世話になった人には感謝してもしきれないぐらいお世話になりました。最後にこのような素晴らしい体験の機会をいただき本当にありがとうございました。

目黒区立大島中学校 2年 大場 進平

今回の遠征での4泊5日はあっという間でしたが、とても充実した時間でした。

僕はこれが初めての海外で、中国語も韓国語もよく知りませんでした。また、学校の部活ではシングルの選手として試合をすることが多かったのでダブルスの試合にも苦手意識がありました。事前に交流会では各国の選手と組んで試合をすると聞いた時、使う言葉が違う人と連携をとりながらダブルスの試合ができるのか不安でした。しかし、交流会が始まると余計な気持ちが浮かぶことはありませんでした。とにかくゲームに集中して一点でも多くポイントを取ろうという

気持ちで一杯でした。

交流会中は、言語が通じなくてもジェスチャーや表情で相手の思いが伝わってきました。ナイスプレイがあったときは味方に笑顔でナイス！と声をかけ合う事ができました。

何回も試合をするたびに、ペアの人や同じチームのメンバーの人との距離が縮まっていくことを感じました。

バドミントンの技能以外にも、今回の交流会を通して実感したことが2つあります。

1つ目はスポーツの素晴らしさです。バドミントンのルールは世界共通です。そしてプレイを楽しみたい、勝ちたいという気持ちも世界共通です。言葉や歴史や文化が違っても1つのコートで一緒に楽しみ、悔しがり、共感することが出来るのはスポーツの持つ力だと思いました。

2つ目は文化交流の素晴らしさです。今まで僕は生まれ育った日本という国しか見たことがありませんでした。

しかし、今回の交流事業で中国と韓国の2つの国の文化と触れあう事ができました。どの文化もそれぞれの国の美しさがあり、とても興味深いものでした。

僕は交流会で、さまざまな経験をする事ができました。どの経験も、僕の心に深く刻まれました。改めて、この素晴らしい機会を設けてくださりありがとうございました。

目黒区立目黒南中学校2年 福島 瑛太

抽選でこの三区間交流事業に参加することができてたくさんの経験を得ることができ、本当に参加して良かったと心からそう思っています。

一日目、中国について最初の練習会では緊張して慣れるのに精一杯でしたが、3回の練習会の中でみんなと仲良くなることができました。特に中国や韓国の子たちと翻訳アプリを通して話すことができたので良かったです。そして日本に帰った今でも仲良く会話ができているのはとても嬉しいです。また練習や試合では緊張もしましたが、とても身になることが多く改めてバドミントン楽しむことができ成長を感じることができました。

バドミントンを行った体育館は、公園の中の湖にある島に建ててあり、日本ではない建築に驚きました。また、文化交流では中国が日本とは全く違う建造物で、中軸線を軸に建物が並んでいるのだと知り、とても興味深く見物することができたのも良かったです。

中国に行くまではあまり中国に対して好意的ではなかったのですが、中国の人の善さや中国の素晴らしい建造物も見て、改めて偏見で物事を考えてはいけなさと実感しました。

三区間交流事業を通して、5日間本当にたくさんの経験をさせてもらい本当にありがとうございました。この経験を忘れず、これからの学校生活や人生で役立てたいと思える素晴らしい5日間でした。目黒区の方や中国韓国の方々にも感謝申し上げます。

目黒区立目黒南中学校2年 武藤 侑志

三区間交流で一番楽しみにしていた事は、外国の子供達と友達になって親睦を深める事でした。今まで僕は海外の人達と英語で会話する機会がなく、自分の英語力で交流する事が出来るか不安でした。

バドミントンのペアになった子は中国の子で英語がペラペラだったけれど僕はあまり英語が得意ではなかったなので、ジェスチャーでなんとかか会話をする事が出来ました。しかし、正しい発音で話さないと伝わらなかったため、試合中は焦っていて正しく言えず、意思疎通ができず大変

でした。ミスした時に僕が「どんまい」と声を掛けると、ペアの子も「どんまい」と言ってくれて意味は分からなかったかもしれないけど心が通じ合えた気がしました。

中国で一番楽しかったことはホテルでの生活です。みんなで部屋に集まってゲームをしたり騒いだりしたのが楽しかったです。

一番驚いたのは建物の大きさです。レストランに行くまでに少し歩いたのですが、大通りにある建物のスケールが大きくて驚きました。そして、瓦屋根の家や店が多い事にも驚きました。日本と中国の共通点や違いについてもっと知りたくなりました。

今後海外に行く機会がある時は言語や文化をもっと勉強し、その国の事をもっと知りたいと思いました。

目黒区立目黒西中学校2年 伊藤 傑

僕は今回の日中韓交流会で様々なことを学びました。その中でも特に印象に残っているのはバドミントンです。ペアを組んだ中国の人となかなか上手くコミュニケーションがとれず、苦戦することが多くありました。ダブルスでのコミュニケーションの大切さに気づきました。ほかにも多くの中国、韓国の人とバドミントンができてとても貴重な体験になりました。また、バドミントンの他にも中国の食文化についても知ることができました。とくに唐揚げ定食と北京ダックが美味しかったです。4日目と5日目の観光では故宫博物院見学が思い出に残りました。とても大きな建造物がたくさんあり、中国の歴史に触れることができました。今回の三区間交流は最初是他校の生徒と仲良くなれるかどうか不安でしたが、日が進むにつれて皆と仲良くなれました。このような沢山の貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。

目黒区立東山中学校2年 山本 結衣

五日間にわたって行われた日本、韓国、中国の三区間交流では、スポーツを通じて他国との交流や中国の観光地を訪れ、素晴らしい体験ができました。

一番印象に残っているのは交流会で行った試合です。私は混合ダブルスで、韓国人とペアを組みました。結果的には四位になることができたのですが、それはペアが取った点がほとんどで自分はあまり試合に貢献することができませんでした。私はそれが悔しかったです。ただ、それ以上に楽しさが勝ちました。私はこの試合を通じてバドミントンへの興味が深まりました。日本へ帰国した後の部活では、前より積極的に取り組むことが出来ていたと思います。一日目の試合後は中国からの歓迎パーティーが行われました。中国は日本と違って円卓での食事でした。回すの楽しかったです。私はたくさんの料理の中でも餃子が一番好きでした。初めて食べた時、肉汁が多くて驚きました。食後には必ず果物がついてきて、日本組で食事をしたときはよく果物争奪戦が開催されていたのはいい思い出です。交流会のおかげで他校の友達とより仲良くなることができてうれしかったです。交流会のメンバーとは大会で会うことができるので、大会に出る楽しみが一つ増えました。ここでできた友達を大切にしていきたいです。

これらの体験から「スポーツは言葉の壁を越える」という言葉を実感することができたと強く思いました。お互いが異なる言語を使う中、スポーツをしているときはそれが全く気になりませんでした。「スポーツは言葉の壁を超える」というのは、他国とだけでなく日本の中でも同じことだと思います。高校といった顔見知りが少ない場所へ行った時も、スポーツを通じて距離が縮

まると嬉しいです。三区間交流で学んだ集団行動の重要性は、これからの学校生活や将来の社会生活にも活かしていきたいです。

目黒区立東山中学校 2 年 本松 華

私は今回、バドミントンの日中韓三区間交流に参加しました。開催地、北京への出発前までは中国の文化などを体験することが楽しみだったのと同時に、言葉が通じない状況で交流したり仲良くしたりできるのか心配もありました。

実際に北京で交流が始まると、みんな積極的に交流をしました。例えば、韓国のある人は日本語の「おはよう」「またね」、中国語の「早上好」「再見」などを聞いて覚え、それらの言葉を使ってたくさんの人と交流していました。また、ダブルスで私とペアになった韓国の人は、試合をしている時、緊張していた私に英語で「Don't nervous」や、日本語で「ガンバレ!」と言ってくれたりしました。このことはとてもうれしかったし、印象に残っています。

中国での試合では、勝っても負けても試合の後に握手をして相手を尊重するという礼儀がありました。それは、「友情第一、試合第二」という考えがあるからだと感じました。

北京では北京ダックなどの美味しい中国料理を食べ、最後には天安門広場や故宮博物院など有名な観光地などをまわり、日本と異なっているところがたくさんあることに気づきました。私はそんな北京が好きになったので、いつかまた北京に行きたいと思います。

次の三区間交流は目黒区で開催されます。他国の同級生と交流ができ、友達もでき、バドミントンも上達するので、ぜひみんなも経験してほしいと思います。

目黒区立目黒中央中学校 2 年 大倉 駒子

私は 3 区間交流会に参加するにあたって言語や文化の違いにとっても不安を感じていた。バドミントンでも交流会でも言葉が通じない。相手の言葉を勉強してもパツとでてくる言葉は日本語、初めての夕食会でも同じ国の人の隣に座った。本当にこれで 5 日間過ごしていくことを 3 区間交流と言うのか私はとても不安だった。

1 日目ダブルスのペア確認。私のペアは韓国人の男の子だった。言葉もわからない上に性別も違う。これは間違いなく自分が足でまといになると思った。実際に打ち合ってみても気が合わない気がしていた。2 日目 3 日目もこのように過ぎ去っていくのではないかと思った。しかし実際は少し違った。2 日目で、ペアの子に日本語が通じなくても大丈夫なのかもしれないと思った。試合中私が得点を決めると振りかえって「ナイス!」と声をかけてくれたり、飛んできたシャトルがアウトだったら「アウト」と言ってくれたりコミュニケーションがとれることに気付いたのだ。そこで私の中の不安は少し消えていた。他にも韓国の女の子達が日本語で「こんにちは」と話しかけてくれたり、日本語で話したりしていた。それで私も少しでも他国の言葉を学ぼうと思った。ホテルで同部屋の子に、「これは中国語にするとどういうの?」と聞いたり調べてまとめてみたりもした。それでペアの子に話しかけたり同じチームの子に挨拶を試してみた。すると相手は日本語で返してくれたり嬉しそうに笑ってくれた。それがとても嬉しかった。

それでもやっぱり同じ地球に生まれた人間で顔も似ているのに言葉が通じないのは変な感じだった。耳に入ってくる話はほぼ全て分からない。だから余計に日本語が耳に入ってくると安心する。その結果日本の友達のもとに行ってしまう。そのおかげで日本人たちとの仲はとても深まったと思う。最初は知り合いの人同士で固まっていたりしたが、最後には他校の子と一緒にいた

り話したりして 5 日間という長く短い日々が過ぎていった。

今回の 5 日間で同じ日本の人達との仲がとても深まったと感じている。初めは不安だった他国の子とのコミュニケーションも、実際に会ってみたら英語で話したり通訳アプリを使ったりと、考えていた不安はだんだんなくなり、5 日間を楽しむことができた。私はこの 3 区間交流会に行くことができてとても良かった。この 5 日間は私の中で一生の宝物になったと思う。

目黒区立目黒中央中学校 2 年 津川 夏希

今年の中国遠征で感じたことは二つあります。一つ目は、文化の違いです。最初にびっくりしたのは電車です。日本と見た目もシステムも違い、カウントダウンがあるのに一番驚きました。カウントダウンは信号にもあり、目に見えて間に合うか間に合わないか分かるのでいいシステムだなと思いました。次に驚いたのは中国の歴史です。歴史的建造物が一本線に沿っていると聞いただけで神秘的に感じました日本にはない感じで賢いと思いました。また、孔子の像が至る所にあるのがすごいなと感じました。孔子は思った以上に背が高く、賢そうでした。

二つ目に感じたことは言語が通じなくても仲良くなれるということです。私は中国語も韓国語も喋れず、翻訳機が使えない環境もありました。それでも、ジェスチャーや簡単な英語で通じ合い仲良くなることが出来ました。帰る前日の夕食会ではみんなでたくさん笑って写真も撮りました。

私は今回の中国遠征で中国について知ることが出来、他の国の人たちと交流もすることが出来ました。一緒に戦ったのも一緒に笑ったのも中国遠征に参加したことで体験できた素晴らしい思い出です。この経験が将来に役立てるようにがんばります。

目黒区立目黒西中学校 2 年 屋敷 いおり

私は今回の体験で、日本だけでなく外国に行ってみるものの面白さや、様々な人との交流の仕方、バドミントンの楽しさについて特に学ぶことができました。

一つ目の外国に行ってみるものの面白さは、初めての外国であまり行く気はしていなかったけれど、いざ行ってみると、中国の方も韓国の方もとても話しかけてくれて、色々な友達もでき、帰った後はすごく気持ちと性格的な部分が明るくなった感じがして、日本以外の世界を知ることの大切さを知ったからです。

二つ目の様々な人との交流の仕方では、相手も自分達も言葉がなかなか伝わらない時が始めは多かったけれど、二日目や三日目になると、みんな積極的に声をかけてくれて、自分も「こんなに話しかけていいんだ」ということを学んだからです。また、言葉は伝わらなくても、プレー中にはハイタッチやラケット同士を合わせて気持ちを伝え合うことができて、改めてスポーツの素晴らしさを知ることができました。

三つ目のバドミントンの楽しさについては、試合の時に味方同士で、互いのミスを助けているところがたくさん見れた時や、実際に助けてもらった時、試合が終わった後も自然と握手とハグができて、それはバドミントンというスポーツが相手味方、国関係なく同じ気持ちにしてくれているんだと感じ、自分の心に強く残った出来事だったからです。

この四泊五日の体験で、本当に自分の人生に関わるような、大きなものを得ることができたのではないかと思います。これから、外国に行ったり、バドミントンを続けていく中で、この経験を忘れずに、中国で学んだことをしっかり活かしていけたらいいなと思っています。ありがとう

ございました。

目黒区立目黒西中学校 2年 岡本 那々衣

私はとても充実した四泊五日を過ごすことができました。

初日の交流会のときペアの人から「名前は何ですか？」と日本語で聞いてくれて、二日目ではお互いに積極的にコミュニケーションをとって連携をとることができました。三日目はバドをするのが最後で、終わった後はお互いに励まし合って、とても楽しかったということをジェスチャーなどで伝えることができました。四日目は夕食の時にプレゼントを渡してくれたり、連絡先をつなぐなど、とても仲良くなれた気がします。バドを通じて交流できて嬉しかったです。

この四泊五日は、違う国のバドの選手たちと仲を深められたり、日本でも他の中学の生徒と、大人の方とも絆が深められたり、中国の文化や歴史も直接目で見て学ぶことができて、ふれることができたり、貴重な体験ができました。

生涯忘れることができない、これらのことをできたことはとても楽しかったです。

これからもバドの練習や試合に励み、どこかでペアになった人や皆にあえたら嬉しいです。

四泊五日間、お世話になりました。ありがとうございました。

玉川聖学院 2年 宮本 瑠美奈

私が三区間交流に参加して学んだことは二つあります。

まず一つ目は、言語が通じない相手でも、スポーツや交流をすることで、心が通じ合えるということです。私がこれを感じた場面は、私のダブルスのペアであった韓国人の男の子が、私が試合前や試合中に緊張していた時に、肩をたたいてくれたり、ジェスチャーで私の緊張をほぐしてくれた時です。私は緊張すると、いつもお腹が痛くなったり、足が思い通りに動かなくなるときがあります。そのようなことが原因で試合中にミスをしてしまうことがありました。そんな時も、ペアの人はやさしく肩をたたいてくれました。私はこのことを通して、言語が違う国の人でも、スポーツや相手の行動で、心が通じ合うことを実感しました。

二つ目に学んだことは、コミュニケーションの大切さです。私はもともと人としゃべるのが苦手で、最初の方はどうしたらみんなと仲良くできるか不安でした。しかし、だんだんとしゃべりかけてくれる子が増えたり、自分から勇気を出してしゃべりかけにいくことができるようになり、そのおかげか、日本に帰る頃には友達がたくさんできていました。改めて、コミュニケーションの大切さに気づきました。

最後に、私は三区間交流で学んだことをこれからの学校生活や部活動に活かしていきたいと思っています。

目黒日本大学中学校 2年 中橋 柚七

今回三区間交流に参加し、国籍も身長もプレーの仕方も違う選手と出会えて、バドミントンにおいても、交流においても、大きく成長ができました。また、中国と韓国の文化に触れ、国民性を知り、日本との違いに改めて驚きました。

私は海外に行ったことはありましたが、外国の方と話す機会はほとんどありませんでした。そのため、初めは仲良くなることができるのか、コミュニケーションを取ってプレーをできるのか不安が多かったです。しかし、初日は緊張してほとんど話すことができませんでしたが、二日目

はペアの選手を誘い、空き時間に基礎打ちをしたことで、ジェスチャー交じりに少しずつ話をできるようになりました。試合中もナイス、と声をかけたり相手の国の言葉でがんばれ、と言いつたりしました。もちろん勝つ試合ばかりではなかったけれど、強い相手と試合をすることで自分の改善点も相手の強いところもたくさん学べました。言語関係なく交流ができるのはスポーツの最大の魅力だと感じました。

四日目、五日目は観光に行きました。歴史的建造物を観て、ガイドさんの話を聞き、初めて知ることがたくさんありました。天安門広場の世界最大級の大きさに驚いたのをよく覚えています。本当にとっても良い経験ができました。

目黒区の選手とも仲が深まり、最終日には帰りたくないと思うほど楽しい五日間が過ごせました。この三区間交流に参加し、貴重な経験ができて心から良かったと思います。そして、関わってくださったたくさんの方々に感謝いたします。

【参考資料】

三区間交流事業事前調査（北京市東城区）【5月21日～23日】

1 目 的

令和7年7月21日（月）から25日（金）に北京市東城区において実施される目黒区、北京市東城区及び韓国ソウル特別市中浪区の三区による三区間交流事業に先立ち、事前調査を行う。実際に子どもたちが使用する体育施設や見学施設などを、現地において調査するほか、今回の交流事業詳細確認や次年度以降の交流推進に向け、東城区政府関係者と意見交換を行う。

- （１）三区間交流事業実施に伴う現地調査及び協議
- （２）今後の交流推進に向けた意見交換

2 日 程

令和7年5月21日（水）から5月23日（金）まで（2泊3日）

月日	時間帯	内 容	場 所
5月21日 （水）	午前	・ 出国	羽田空港
	午後	・ 北京市東城区到着 ・ 大会会場視察 ・ 東城区内小学校視察	北京首都国際空港 龍潭湖体育館 北京市板厂小学校 北京市広渠門中学校附属花市小学
5月22日 （木）	午前	・ 日中韓三か国実務者会議 ※中浪区はオンラインで参加 同中学校視察 ・ 歓迎昼食会	北京市第二十二中学校 花家怡園
	午後	・ 東城区内視察	故宮博物院
5月23日 （金）	午前	・ 東城区内視察	前門大街
	午後	・ 帰国	羽田空港

＜参考＞経費負担（区訪問団6名分）

宿泊旅費、現地車両費、通訳士経費、記念品等 1, 656千円余。

※二区間の取決めにより、歓迎食事会の経費は東城区が負担。

3 訪問団の構成

濱下 正樹	文化・スポーツ部長
西村 敏弘	文化・交流課長
平野 宏子	スポーツ振興課長
成毛 久雄	文化・交流課交流推進係長
橋本 紗花	文化・交流課交流推進係主事
佐藤 舞笑	スポーツ振興課計画指導係主事

4 概 要

(1) 大会会場視察

①日 時 令和7年5月21日(水) 午後2時50分から3時40分まで

②場 所 龍潭湖体育館

③同席者 外事弁公室 蔡(サイ)約翰副主任 他3名

北京到着後、本年7月にバドミントン大会が行われる会場を視察しました。龍潭湖体育館は、区民が集う龍潭公園という大きな公園の敷地内に設立されている体育館です。最大バドミントンコート10面、バスケットボールコート1面が使用できるとのことでした。大会を想定しながら、コートやトイレ等の主要設備を中心に会場内の施設および併設レストランを見学し、一つ一つ確認を行っていました。



(2) 東城区内小学校視察

①日 時 令和7年5月21日(水) 午後4時から5時まで

②場 所 北京市板厂小学校、北京市广渠門中学校附属花市小学

毎年新年に行っている、目黒区と東城区のグリーティングカード交流事業でも関わりのある小学校2校を視察しました。北京市板厂小学校では、目黒区の訪問に際し、伝統芸能等の演技を子どもたちに披露していただきました。また、実際に行われている授業の風景を一部見学したところ、両学校ともに体力づくりや建築、伝統芸能、音楽、美術、演劇等、多岐に亘る能力を育む選択プログラムが用意されており、東城区が青少年の教育に対して非常に熱心に取り組んでいる現状を知ることができました。



（３）日中韓三か国実務者会議

①日 時 令和7年5月22日（木） 午前9時30分から11時20分まで

②場 所 北京市第二十二中学校

③同席者 【東城区】外事弁公室 蔡（サイ）約翰副主任 ほかに9名

【中浪区】行政支援課対外労務組長 呉（オ）勝美氏 ほかに3名

7月に行われる日中韓三区間交流事業について、今年度初めての三か国実務者会議が開かれました。（中浪区はオンラインによる参加）

大会の方向性の確認をはじめ、大会の進行方法や今後のスケジュール等について、三か国の担当者間で細かな確認を行いました。2か月後の大会開催に向け、有意義な会議を行うことができました。



（４）東城区内中学校視察

①日 時 令和7年5月22日（木） 午前11時20分から11時45分まで

②場 所 北京市第二十二中学校

オンライン会議の会場となった北京市第二十二中学校内の視察を行いました。同学校はバスケットボールにおいて北京市内で最も実績と歴史があり、数々の大会での優勝旗やトロフィーが展示されていました。



(5) 歓迎昼食会

①日 時 令和7年5月22日(木) 午後0時から1時40分まで

②場 所 花家怡園

③同席者 外事弁公室 蔡(サイ)約翰副主任ほか教育委員会、体育局より各1名

東城区外事弁公室蔡(サイ)約翰副主任主催による歓迎昼食会は、和やかな雰囲気のもと開かれました。今回のバドミントン大会をはじめ、各国の未来を担う青少年たちの交流と、区間レベルでの草の根のつながりを続けていくことの重要性を改めて確認しました。

(6) 東城区内視察

①日 時 令和7年5月22日(木) 午後2時30分から4時30分まで

②場 所 故宮博物院

中国が誇る世界遺産の一つである故宮博物院を視察し、中国の歴史などの説明を受けました。セキュリティチェックなどが厳重に行われる点を含め、観光客が大変多い施設でもあることを加味した行動が必須である場所であることを改めて確認しました。また、敷地の広さや、建造物の大きさ等において全てスケールが大きく、中国文化を肌で感じることができました。



(7) 東城区内視察

①日 時 令和7年5月23日(金) 午前9時20分から11時00分まで

②場 所 前門大街

前門大街は、建造物等から中国文化や歴史を感じながらも、商業街としての活気も感じることができる、伝統と現代が融合したエリアとなっていました。施設職員より北京中軸線についての歴史等解説を受けた後、子どもたちが購入するためのお土産店等を調査しました。また、今回の事前調査時は外観の見学に留まりましたが、本年7月の交流事業時には、子ども達が前門大街の上部まで登る機会を提供したいとの意向を受けました。



5 まとめ

今回の事前調査では、令和7年7月に開催予定である三区間交流事業実施に向け、子どもたちが安全に充実した体験活動を行うことを念頭に、大会会場、訪問予定の文化施設および宿泊施設等の視察を行いました。三区の実務者会議においては、本事業の方向性の確認を行い、大会の進め方や安全面等について意見を交わすことができました。また、東城区内の小中学校を訪問した際には、東城区が教育に力を入れている現状を理解するとともに、スポーツや文化・芸術等の体験活動の重要性を再確認しました。

本事業では、メインとなるスポーツ交流に加え、文化的体験の機会を提供することも同様に重要と考えているため、渡航先の中国ならではの食文化、伝統文化、歴史等を体感できる場の検討も行い、有意義な事前調査を行うことができました。

